

大和の
伝統野菜

味間いも



本町の特産品としてアピールできる作物の一つとして推進を行っていた「味間いも」が、大和の伝統野菜として県に認定されました。
より多くの方に「味間いも」のおいしさを知っていただくため、「農業祭」や「あったかもんグランプリ」などさまざまなイベントに参加し、PR活動を通してブランド力強化に努めています。



農業祭でのPR活動

なす

吉岡 政伸さん



千両ナスを栽培しています。収穫は家族と夜明けとともに始め、多い日で2,000本出荷しています。

ほうれん草

松岡 茂光さん
秀樹さん



土づくりとハウス栽培の水と温度の管理が重要です。後継者となる息子に現在教育中です。

花き

安田 勉さん



切り花と球根を栽培しています。ハウス栽培なので温度と害虫の管理に気を使っています。

トマト

井上 雅光さん



4,500本のトマトのハウス栽培は、やはり日頃の手入れが大切です。収穫は夫婦2人で行い、1日1,000個以上出荷しています。



事務所・格納庫・機械を組織で所有

多様な担い手の育成

農事組合法人 多集落営農組合

集落営農の組織化により、施設・機械の共同利用や農地の計画的利用などに取り組み、組織を法人化することにより経営の合理化を行っています。

これにより、担い手不足の解消や、生産コストの低減、相互補助の復活など、次世代につながる営農を展開しています。



豊かな大地で育む

田原本ブランド



次世代につながる生産基盤を整備

美味しくて、売れる
農業を目指して

大和平野のほぼ中央に位置し、周辺を山に囲まれ、夏は暑く、冬は寒い、典型的な盆地気候である田原本町。

古くから米作りが盛んで、最近では、野菜など付加価値の高い農産物を栽培する農家が増えてきました。町では農業を田原本の豊かな田園都市を形づくってきた重要な産業として位置づけ、次世代につながる営農ができるよう、担い手となる農業者の育成・強化を図るとともに、新規就農者の支援を積極的に行っています。経営を支える生産基盤の整備を進めるとともに、田原本ブランドの育成とPRを進めます。

また、農業祭の開催、地元産野菜を使った学校給食、農業体験などを通じて地産地消の取り組みも行っていきます。

interview インタビュー



取田 宙也さん 佳奈さん

奈良のブランドである「あすかルビー」を夫婦で栽培しています。イチゴ狩りや「やどかり市」で、イチゴのパウンドケーキを販売したときに、お客さんから直接「おいしい」という生の声を聞くことが、私たちの原動力になっています。農業を取り巻く環境はやさしくはありませんが、地元で愛される農家になり、農業で「まちの顔」になれるよう日々頑張っています。



新たな工場適地の創出

企業誘致地区

地域の活性化へ、積極的な企業誘致を推進

地方創生の観点からも重要である地域の活性化や、若い世代の安定雇用を確保するため、田原本町では田原本インターチェンジ周辺新都市機能地区等への積極的な企業誘致を推進しています。また、県と連携して、現在ある準工業地域を中心に新たな工場適地の創出に向け積極的に検討していきます。

- 1 進出メリット**
快適・便利なアクセス
 大阪や京都と直結できる交通環境にあり、物流・通勤に便利な立地です。西名阪自動車道、南阪奈道路に加え、京奈和自動車道の整備が進み、アクセスはさらに良くなります。
- 2 進出メリット**
独自の企業立地優遇制度
 田原本町では、躍進を目指しておられる企業の皆様方が工場立地を検討していただけるような優遇税制の制度や特色のあるさまざまな独自の奨励金制度をいち早く取り入れています。
- 3 進出メリット**
災害の少ない優れた立地
 ほぼ平坦な土地であるため、敷地を有効に利用できます。また現在示されている断層帯は走っており、土砂災害が発生する可能性が低く、水害についても積極的な対策を進めており、安全安心なまちであるといえます。
- 4 進出メリット**
安定的な雇用の確保
 田原本町を中心とする近隣市町の人口は32万人を超え、多様な人材の確保が可能な都市圏です。また、奈良県は専業主婦の割合が全国1位であり、町の子育て支援施策の推進により女性従業員の確保も可能であると考えます。



市街地の活性化などを積極的に展開

賑わいと活力あふれるまちづくり

地域経済活性化のため企業の成長を支援

経済の停滞が続くなか、田原本町では、地元企業に対する経営の安定化・設備投資の充実を促進するため、融資制度を設けています。また、企業や商工会と連携しながら、地元企業の活性化や田原本から成長を目指す企業の支援を続けていきます。

中心市街地の賑わいを取り戻す「やどかり市」

全国的に中心市街地の空洞化や商店街の衰退が進むなか、田原本町では田原本駅周辺を基軸とした「歩いて暮らせるまちづくり」を推進しています。田原本町地域公共交通活性化協議会では、駅周辺の商店や県内の大学・高校と協力し、駅周辺の活性化を目的とした「やどかり市」を開催するなど、賑わいの創出に協力していきます。



実際に立地された方の声

大阪デリカフーズ(株)

[事業内容] 食品加工業
[立地を決定した理由]
 ・新興産業や大手企業の進出がこれからであるため、雇用の確保が比較的しやすい状況であった。
 ・京奈和自動車道やバイパスの開通に伴い、奈良市街地や大阪、京都方面へのアクセスがよい。
 ・自治体の補助金制度で、総投資額の約1割を補助金で賄うことが可能であった。

代表取締役 社長 杉 和也さん

(株)吉川ジオテック

[事業内容] コンクリート製品製造業
[立地を決定した理由]
 ・奨励金制度などが用意されていた。
 ・奈良盆地の中心に位置し、交通の利便性が高い。
 ・旧工場との立地関係が良好であった。
 ・投資金額が想定内であった。
 ・創業の地であり、地元意識が高かった。

代表取締役 社長 吉川 真司さん

interview インタビュー

織田 豊店

4代目 織田 理さん

創業120年の畳屋を守り、畳の良さを知ってもらうため、「敷く畳から、持ったたみ」をコンセプトにした「畳小物」を数年前から開発しています。その一つ、ラウンド財布が2016年度のグッドデザイン賞を受賞しました。ロゴマークには楼閣をデザインし、田原本を日本中へ、世界へと発信し、地元密着の畳屋として地元へ恩返しできればと思っています。

interview インタビュー

花太刀食品工業(株)

代表取締役 長塚 洋二郎さん

1948年にジャム加工会社として創業し、現在はコンビニスイーツのクリームや、独自加工技術による野菜・果物ペーストなど、食品原材料の製造・開発を行っています。田原本に移って40年。地域には食品加工会社が少ないので、小学校の工場見学の受け入れや、奈良県産野菜の加工食品開発など、少しでも地元へ貢献できればとの思いで取り組んでいます。